

出題分析			
試験時間 150分/2科目	配点学部による	大問数 3題	
分量（昨年比較）	[減少] 同程度 増加]	難易度変化（昨年比較）[易化 [同程度] 難化]	
<p>【概評】</p> <p>標準問題をベースに、後半に計算力・思考力を要する問題が見られた。どの問題も現象を具体的にイメージできると考えやすくなるので、数式だけに頼らないようにしたい。また、各設問の物理的な考察にしっかりと取り組まなければ、状況の把握や立式の難しい設問も見られる。頻出の図選択の問題が①, ②で出題された。出題分野は例年通り、①が力学、②が電磁気で、③は昨年の波動から熱力学に変わった。例年、試験時間に比してやや出題分量が多いので、解答する問題に優先順位をつけて取り組みたい。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
①	力学 円運動 運動量保存則 エネルギー保存則 摩擦力	なめらかな斜面と円弧上の曲面を運動する小球に関する問題である。前半は円運動の典型的な問題であるので確実に得点したい。後半も途中までは衝突や仕事の原理の基本事項が理解できていれば解決可能な問題である。最後の問(2)(d)のグラフ選択と理由説明問題が難しい。数式のみだけでなく、定性的に考えていくことが重要である。	標準
②	電磁気 電磁誘導	磁場中を落下する長方形回路についての電磁誘導の問題である。典型問題であり、類題を経験している人も多かったと思われる。前半は基本問題なので確実に得点したい。後半はローレンツ力の式に加速度が現れることに気づくことがポイントである。総じて計算量も少なく、比較的解きやすい出題であった。	やや易

3	熱力学 気体の状態変化	ばねと連結された断熱材でできたピストンで仕切られた2部屋の気体の状態変化についての問題であった。前半は気体の状態方程式とピストンにおける力のつり合いを立式して丁寧に解いていきたい。後半は左部屋が等温変化，右部屋が断熱変化，ばねの伸びが0となる状態3では両部屋の圧力が等しくなることを軸に解いていく。情報量，計算量が多いので，できるだけ条件を整理してミスをしないように解いていく必要がある。	やや難
---	----------------	--	-----

合格のための学習法

本年も昨年同様，物理の力を丁寧に問う良問であった。やや取り組みづらい問題もあるが，主に標準的なもので構成されているので，そうした問題を符号ミスや計算ミスなどでケアレスミスすることなく，確実に得点を積み上げていくことが合格のポイントとなる。標準的な設問をとりきれば，高得点をとることも可能である。対策としては基本問題でしっかりした基礎力を養った上で，標準レベルの問題にじっくり取り組み原理や解法を理解しておくことが最も重要である。また，深く考える必要のある難しい設問が出題されるので，過去問や問題集を中心に難しめの問題にも取り組み，じっくりと丁寧に物理的な思考力や計算力を養っておくことが大切である。